

株式会社C&Fサポートサービス



～1万人以上のグループ社員の安全・事故ゼロへ～ 「安全運転」への意識醸成に向けた運転シミュレーター活用法



株式会社
C&Fサポートサービス



法人名	株式会社C&Fサポートサービス
設立	2018年4月1日
所在地	東京都新宿区若松町33-8 アール・ビル新宿
事業	<ul style="list-style-type: none"> ・損害保険の代理店業ならびに生命保険の募集業務 ・不動産の売買、管理、賃貸または交換代理・仲介 (宅地建物取引業 免許証番号：東京都知事(14)第26778号) ・その他
従業員数	11名

■株式会社C&Fサポートサービスについて

損害保険会社との委託契約に基づいて、保険契約の締結・保険料の領収・保険料領収証の交付・契約の管理等の代理業務を行っている。C&Fロジホールディングスグループの従業員をはじめ一般の企業や個人向けにも保険サービスを展開し、複雑化する社会の中で、リスクマネジメントの専門家として最適なソリューションを提供している。

導入のキッカケ・課題について

■リアルに近いトラックバージョンのシミュレーターが導入の後押しに

同社は運送を中心とした物流グループ企業として安全かつ事故防止に対して積極的にこれまでも取り組んできた。それまでの対応では、トラック協会が提供する適正検査や研修、保険会社からの運転シミュレーターのレンタルなどが主であり、現場ではマンネリ化が起り始めていた。

同社グループが有するトラックは2,800台にもものぼるため、自社内での安全運転研修所設置の検討も進めていた。その中で、コロナ禍になり集合研修の実施が難しい状況となったものの、安全運転に向けた啓発活動を先行して進めるために、同社では運転シミュレーター2台の導入に至った。

同社は主に保険代理店事業を展開している。減災や防災と同じように事故を未然に防ぐリスクマネジメント機能をもつところから、同社の常務取締役の藤氏を中心に導入を推進していくことになる。

それまで他社製品などの利用もしていたが、マネージビジネス社が提供する商品の中に、トラックバージョンとしてより実践に即したトラックに近い目線で3Dの乗車が可能な点も導入の後押しとなった。

運転シミュレーターの活用

■ 操作マニュアルから設置まで手厚いサポートで誰でも利用可能にする

同グループには全国に128の事業所があり、2台の運転シミュレーターを一定の期間で利用を定めながら活用し、様々な事業所で利用されるように運用をしている。

親会社である株式会社C&Fロジホールディングスが管理している車の事故、労災、商品事故の管理の実績内容から、安全管理部の中で優先順位を付けたうえで、グループ会社の該当する事業所に案内される仕組みになっている。

現在は事業の軸を担う、名糖運輸とヒューテクノオリンがそれぞれ1台ずつ利用しており、1年で4ヶ所の事業所をまわれるように、3ヶ月間で該当する事業所内で運転シミュレーターを利用してもらうようにしている。

同社は、機器を宅配便で配送しつつ、運転シミュレーターの設置と回収をサポートし、また運転シミュレーターの利用に当たっては既存のマニュアルを活かしながら、同社独自のものとして藤氏自身が編集し、全国の事業所で誰でも利用できるよう工夫をしている。

また、実際の機器の設置方法についても接続の手順を示す案内シールなども貼りつけ、同社の担当者でなくても、問題なく設置できるよう気配りがされている。このように利用する事業所が標準的に安全運転に取り組めるように、同社がサポートすることで、グループ全体の安全運転活用の浸透を図っている。



交通事故、労働災害防止の取り組みの1つに無事故表彰などがある

運転シミュレーターの活用

■ 義務感ではなく、日常からの安全運転意識づけを徹底する運用の工夫

運転シミュレーターの利用対象者はドライバーのみではなく、それ以外の管理部や作業員においても自家用車で通勤する社員も対象に含めて展開をしている。

対象者にむけて実施するコースは独自のプログラムを設定している。主に対象となるのは6コースある。運転反応検査の4コース、運転操作課題で一番難しい視線曲線部コース、危険予測コースの合計6コースになる。全6コースを3ヶ月で事業所の社員全員が実施する形で安全運転の啓発と自身の運転診断の傾向値の把握を行っている。

運転シミュレーターの活用

■ **義務感ではなく、日常からの安全運転意識づけを徹底する運用の工夫**

特にドライバーにおいては、運転シミュレーターの診断結果を本人と事業所にそれぞれ1枚ずつ渡し、運転開始前の点呼執行時に自身の傾向を認知してもらうように運用を工夫している。

「運転シミュレーターに乗ることが目的になるとマンネリ化してしまい、義務感に繋がってしまいます。そうならないように、点呼のタイミングで診断書を活用し、1日1日を安全に運転できるように、管理者からレポートを活用してドライバーに一声かけてもらうようにしています。」と藤氏はいう。

診断書の結果からは、ドライバーの性格も表れているという。気が短かったり、慌てる傾向があると簡単なコースでもミスしてしまったり、年齢的な影響による反応速度など個々人の特性が数値に反映されている。

同社グループでは、安全管理部が主管となって安全管理研修やドライブレコーダーの動画データによる指導・注意喚起を行っており、運転シミュレーターはそれ自体の評価が目的ではなく、安全に事故のない運転ができるように日々の意識づけを強化していくことに活用している。

運転シミュレーターの展望

■ **運転シミュレーターを通じて役割の使命を果たす**

導入して1年が経過している同社では、今後は診断結果データの利活用にもつなげていきたいという。例えば、運転シミュレーターによる診断結果から集約された評点から、事業所別の平均点をもとにしてランキング形式で傾向の分析なども視野に入れている。

「私たちは、保険代理店を主な事業としていますが、社員に対する事故やケガなどのリスクマネジメントをグループの中で担っています。その意味では、運転シミュレーターも我々の使命とリンクする部分になるので、これからも有効的に活用していきたいと思います」と藤氏はいう。

同社は社名に表現されているように、サポートサービスとしての役割を果たすべく、保険や運転シミュレーターを通じた安全運転の啓発を通じて、事故のない物流会社を今後も目指していく。



Hondaセーフティナビ
運転能力評価サポートソフト



【お問い合わせ】

本掲載記事へのお問合せは以下でお願いします。

株式会社マネージビジネス
03-6429-9977 (シミュレータ専用ダイヤル)
シミュレータ製品担当営業宛